

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)

《 Matsui 》

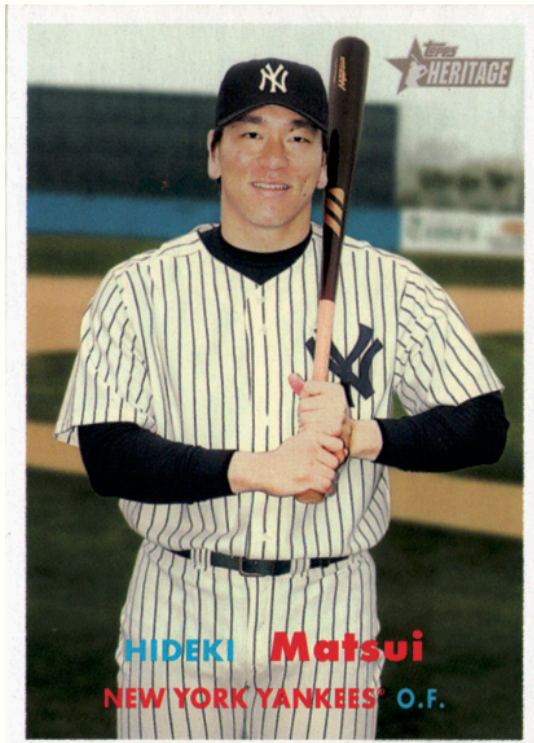
今回は自分自身のことではないですが、ニューヨーク・ヤンキースで活躍した Matsui について書かせてもらいました。

「Vol.30」のこのコーナー《 Nomo 》で、これまで誕生した多くの日本人メジャーリーガーの中で「野茂以上の存在の選手はいないと思っている」と書いた。今もその気持ちに変わりはないものの、この夏のニューヨークでの感動の出来事に Matsui の偉大さも痛感させられた。

7月28日(日本時間7月29日未明)昨季限りで現役を引退した日本人メジャーリーガー松井秀喜がニューヨーク・ヤンキース対タンパベイ・レイズ戦の試合前にヤンキースと1日限定のマイナー契約を結び、ヤンキー・スタジアムで引退セレモニーが行なわれた。

この引退セレモニーがどれだけ凄いことかは、ニュース映像を通じて肌で感じたつもりだが、数十年経った後に改めて実感できることなのかもしれない。知名度の高さではオノ・ヨーコがいるが、恐らくニューヨークでこれだけ多くの人に愛され、親しまれ、名を知られた日本人はこれまでにいなかったらう。

残念ながら、ヤンキー・スタジアムでメジャーリーガー松井秀喜の雄姿を見ることはできなかったが、松井が海を渡る前、読売ジャイアンツで活躍していた時代は松井＝ホームラン・バッターのイメージが強かったこともあり、正直、中距離ヒッター的な存在になってしまった感があったヤンキースの松井に物足りなさを感じてしまっていた…。実際にそう思っていたファンも多かったはずだ。



The Topps Company

だが、今思い返してみると、メジャーリーグの中でも名門と称されるヤンキースで7年間レギュラーとして活躍し、メジャーでは3番打者が最強と言われることがあるが、4番打者も務めた松井はやはり偉大な選手と言わざるを得ないだろう。

そして、6試合で13打数8安打(打率.615)と大活躍し、ヤンキースを27度目のワールドシリーズ制覇に導き、自身も日本人として史上初のワールドシリーズ MVP に輝いた2009年のワールドシリーズは既に伝説といっても過言ではなく、ファンやチームメイトに愛され続けた松井の人柄と共に、この時の活躍が今回の引退セレモニーに繋がったのだろう。

個人的には、2003年4月8日ヤンキー・スタジアムでのデビュー戦。満塁で回ってきた第3打席に見事なメジャー第1号ホームランとなるグランドスラムをライト・スタンドに叩き込み、ベンチに戻って来た後にチームメイトに促されるように、スタンドのファンに帽子をとって声援に応えた瞬間。そして、同年のリーグチャンピオンシップシリーズ第7戦。2対5と3点ビハインドで迎えた8回裏に2塁打を打ち、続くボサダのセンター前ヒットで2塁からホームインした際に、飛び上がって喜び、チームメイトとハイタッチをした松井の雄姿も忘れられない。その後、惜しくもワールドチャンピオンは逃したが、ワールドシリーズで4番も打ち、日本人初のワールドシリーズでのホームランも放っている。この2つのシーンは今でも鮮明に憶えている。

日本でも今年の5月5日に長嶋茂雄と共に国民栄誉賞を授与され、ニュースなどでも次期読売ジャイアンツの監督候補として名前が挙げられてもいたが、それよりも、ぜひメジャーリーグの打撃コーチ等を経て、近い将来、日本人初のメジャーリーグ監督として、再び名門ニューヨーク・ヤンキースのユニフォームに袖を通して欲しい。それも Matsui なら可能な気がする。